



京都 YWCA

5 2023



古都に咲いて100年



「共に生きる」社会をめざして

関東大震災が発生した年（1923 年）の 3 月に設立された京都 YWCA は、お陰様で今年 100 周年を迎えました。

京都 YWCA は東京、横浜、大阪、神戸の YWCA に次いで誕生しました。女性の生き方がさまざまに制限されていた時代に、神の前の平等と隣人愛を説くキリスト教の思想に共鳴した女性たちによって運営が担われ、女性の主体的な生き方や社会参加を応援する事業・活動を続けてきました。戦争中は事業や活動が制限されましたが、戦後は新しい憲法を活かし、戦争や暴力のない社会、「共に生きる」社会の実現をめざしてきました。

2014 年からは、年齢や文化的背景の異なる人々が出会い、協働する「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」を推進しています。これを通じて、女性や子どもをエンパワーし、さまざまな特性を持つ人々がふれあい、一人ひとりが大切にされる社会をめざしています。

次の世代につないでいくために

現在、仕事をもつ女性が増え、女性のライフスタイルは大きく変わりました。3 月の定期会員集会では、いかにして新たな YWCA 運動の担い手を育て YWCA の理念に共感する人たちと出会うか、21 世紀において女性団体であることの意味は何か、私たちが望む未来の実現のために何をすべきかなどについて語り合いました。

弱い立場にいる人々や生きづらさを抱える人々の居場所としてのセーフスペースを提供し続けることを確認しました。一方で、社会の変化を見据え、変化するニーズに応ずる柔軟な発想も求められます。100 年の歴史を通じて先人たちから受け継いだ資源や経験を活かして、女性の視点から社会を変えるために、外部に発信していくことも重要です。そのためにも、垣根を超えて人々が出会い、協働できるプログラムや場を積極的に作っていかうと考えています。このチャレンジに多くの方々のご参加とご支援をお願いします。

（編集部）

2023 年度ミッション推進活動 運営委員会 会長あいさつ 古都に咲いた100 年のその後 ～時代を聴き、種を蒔き続ける～

京都 YWCA は創立 100 周年を迎えました。この 2 年間、これまでの歩みを振り返る機会をもってきました。過去の資料からさまざまな活動が展開されてきたことや、その時々に関わった人たちの熱量を知ることができます。

創刊当初の機関紙には個々の会員の動静まで書かれていたり、古いアルバムに挟んであった紙芝居仕立ての「委員の心得」には、「望ましくない態度の 12 箇」として、例えば、いつも遅く来て早く帰る人たちのことを「腰落ち着かぬ“時計にらみ屋”」といった具合に痛烈に皮肉っていたりして驚かされます。今、私たちが考えて取り組んでいることも、創立 200 周年の時（があると願い）には、「信じられないよね！」とされているかもしれません。

それはいつも時々の社会の在り方が反映されているからです。女性の視点で社会変革をめざす YWCA の活動・事業は、社会から聞こえてくるさまざまな声を拾うことで推進されてきました。「時代の心」に合わせ、京都 YWCA はその姿を新しくしながらここまで歩んできたのです。

変化の激しい時代である現代は、情報や物質的な豊かさに溢れています。しかし、同時に暴力や天災や人災によって人権や命が危うくされてもいます。社会から見えなくされているけれども、確かに存在する無数の痛みの声に耳を傾け、それを理解しようとし、ともに立ち上がろうとする力は「つながり」から生まれます。会員組織としての YWCA の強みです。

花が咲き、実りの収穫の後には、新たに種を蒔かねば再び花も実も育ちません。創立 100 周年の今、平和の実現を信じ、皆さまとともに 101 回目の種蒔きをしたいと思います。

（別所加恵）



シリーズ——日本語でつなぐ笑顔と笑顔 (2) ～にほんご教室「洛楽」～

多文化交流——火曜日の中上級クラス受講生の声

ファルク・アデリア（アメリカ出身）

私は「洛楽」に来る前に少し独学しました。だから色々な日本語力にギャップがあります。上手になりたかったので教室を探しました。実は京都で私のレベルに合う教室が少なかったのですが、このクラスに参加できました。4、5 年ここで勉強しています。私は新しい言葉を習う時や読む時に他の人のようにスピードが出ないこともありますが、皆さんが本当に応援してくれます。先生、クラスメート、スタッフも皆優しいです。皆は学習するための良い雰囲気を作ってくれます。

ユン・ソニョン（韓国出身）

私は「洛楽」で 7 年ほどお世話になっています。ひらがなだけ知っていた私が、優しくて素晴らしい先生に出会えたのは本当に幸せなことだと思います。初級から始まった授業も今は上級を目指しています。色々な読み物を使って日本語の文法のみならず、日本文化など多くのことを学ぶことができました。そして、いろんな国の方たちとも出会いました。授業の後に「うららかふえ」で



京都YWCAにほんご教室洛楽

2013 年 1 月に元『洛楽』講師が案を出してロゴを作成しました



ランチをしながら日常会話を楽しむのも、私にとって良い時間です。今は私の経験をもとに韓国から来たママたちを通訳で助けています。「洛楽」の名前の通り京都での生活を楽しく支えてくれていることに感謝しています。

張永綏（中国出身）

私は日本語を独学していましたが、限界があると感じ、「洛楽」に通うことにしました。とても親切な先生とクラスメートたちに会いました。自分一人で勉強するよりも、ここで学ぶ方がもっと楽しいと感じました。授業後のランチを毎回楽しみにしています。YWCA での学びは、日本語力だけではなく、人とのつながりを深めることもできて、非常に有意義な時間です。



火曜日の中上級クラス（講師、受講生）

滞日外国人の背景を知る—異文化理解のために—シリーズ① ウトロ平和祈念館を訪ね、在日コリアンの歴史に触れる

3月21日、子どもから大人まで計40名が、昨年4月に開館したウトロ平和祈念館に集った。在日コミュニティでは、最初のあいさつ代わりに「ご飯食べたか？」と聞くという。明るく開かれた1階は台所も備えており、時にはおいしいものを介在にし、人と人が出会って未来をつくっていくという祈念館のコンセプトがよく表れていた。

ウトロ地区の形成は、1940年に京都府宇治市と久御山町域での京都飛行場の起工に始まる。当時朝鮮人労働者だけでも1300人を集める大工事で、この頃に彼らの宿舎（飯場）ができる。戦後は何の補償もなく「置き去り」にされた人々は、ここで懸命に生きた。劣悪な住環境の中、水道がないことを知りかけつけた住民とともに闘い、上水道が整備されたのは1988年のこと。1989年には立ち退き訴訟を起こされ、2000年に最高裁で住民敗訴が確定する。

しかし、日本人、韓国人、韓国政府など多くの人が共闘した運動の結果、2011年に一部の土地の買い取りが完了し、そこに2017年に公営住宅が完成する。この長い道のりは、在日コリアンの歴史と共に2階展示場で知ることができる。副館長の金秀煥（キム・スファン）さんが語っていたように、どんな困難なことも「諦めない限り乗り越えられる」ことを実感し、「ここに生きる人々

の尊厳を守った運動の歴史」を知ることのできる場所だった。

3階には「ウトロに生きた人々」と題し、一人ひとりの生き様を象徴するようなメッセージと複数の写真が垂れ幕になって展示されている。読めば目頭が熱くなり、ここに生きた誇り高き人々から学べることは計り知れないと感じた。

フィールドワークでは放火事件（2021年）後の痛々しい現場も見た。ヘイトクライムにつながる差別意識が形成されるような社会を絶対につくってはならない。

最後に1階に再び集い、それぞれの思いを語り合った。一人ひとりの尊厳が守られる社会をつくるために、自分の現場で何をしていくのか考え、エネルギーを与えられた研修となった。

（織田雪江）



フィールドワーク開始前に説明を聞く参加者



シリーズ——京都 YWCA 100 年の歩み (14) 最終回 地域 YWCA としてのユースエンパワメント

YWCAは「若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進める」ことをミッションとしている。ユースエンパワメントはいわば、YWCAのアイデンティティとも言える。

若い世代への教育や課題への積極的な取り組み

2010年代前半の京都YWCAのユースエンパワメント活動を牽引したのは、「次世代プログラム委員会」（2010～2014年度）であった。学童期の子たちへの人権・平和・多文化共生教育プログラム、デートDVや児童買春など子ども・ユースをめぐる社会課題の学習や啓発活動を通じ、次世代育成の可能性を追求した。先駆的で意欲的な活動だったが、運営メンバーの生活の変化や参加者の減少などにより2014年度に発展的解消として活動を閉じた。

地域 YWCA 共通の課題から

その後、京都YWCAのユースエンパワメント活動は、日本YWCAの地域連携事業（ローカル・アクション LA）第1期（2017～2018年度）参加まで待つことになる。LAの取り組みの一つ「ユース育成」検討チームは、京都YWCA徒歩圏内の学校 YWCA との関係構築、ユース異業種交流会、世界YWCA総会へのユース派遣、年少会員枠

の再設定など、地域YWCAとしてユースを受けとめる土壌づくりに努めた。

LA第2期（2019～2020年度）への参加時は、タスクの一つとして「ユースエンパワメント」が位置づけられた。勉強会と近隣学校YWCAへのワークショップを連動させて、学びの成果をより若い世代と共有する循環がつくられた。2020年3月から始まった新型コロナウイルス感染症パンデミックでユースはオンラインというツールを手に入れ、自分たちのアイデアを次々と形にし、つながりは世界規模となった。

2021年度には京都YWCAに「ユースによる、ユースのための」活動を推進する「ユース委員会」が立ち上がり、現在まで内外のユースが参加するプログラムが継続されている。100周年を迎える2023年度には多世代の共学・協働が京都YWCAに根付くことを期待している。



2019年4月 世界YWCA会員日集会後の「たこ焼きパーティー」

今後のプログラム

◎ 100 周年記念イベント

リユニオン——ティーパーティ「ようこそ会館へ」

京都 YWCA の過去の関係者（会員・会友・職員、その他ご縁のあった方々）と現在の関係者が出会い、交流します。京都 YWCA の歴史に思いを馳せるとともに、会館内を案内して現在の活動・事業の紹介も行います。

■日 時：5 月 14 日（日） 13：30～16：00

■場 所：京都 YWCA

■対 象：京都 YWCA の過去および現在の関係者どなたでも

■参加費：1,000 円 ■申込締切：5 月 10 日

◎映画「プリズン・サークル」上映と講演会

官民協働の新しい刑務所「島根あさひ社会復帰促進センター」を撮影したドキュメンタリー作品です。

鑑賞後、藤岡淳子さん（大阪大学大学院名誉教授）の講演を開催します。

■日 時：2023 年 5 月 20 日（土）13：00 開場 13：30 上映開始
16：00 講演開始 17：00 終了予定

■場 所：日本キリスト教団 室町教会

■対 象：どなたでも

■参加費：一般 1,200 円、カルーナ後援会員 1,000 円、
30 歳以下・障がい者 無料

■申込締切：5 月 17 日

スタッフ募集中です！

無農薬の野菜・無添加食材の配送業務です。スタッフは消費者のお宅へ日々配送、そして産地との連絡、安心安全な食べ物の企画などの仕事を行っています。

生産者と消費者が繋がることで食の安心、安全、安定を目指しています。待遇面や業務の内容など、ご興味があれば、まずはお問い合わせください。



安全農産供給センター

宇治市槇島町目川 118-7 仁木まで
TEL：0774-22-4634 FAX：0774-24-9512
e-mail nousan@peace.ocn.ne.jp

ご協力ありがとうございました

2023年2月1日から3月31日 寄付者一覧（敬称略、順不同）

各指定寄付

*法人支援

室紀子、日本キリスト教団京都丸太町教会、
日本キリスト教団平安教会

各指定寄付

* 100 周年記念募金

池上信子、高橋正子、近野玲子、
島崎真奈美、神岡茂子、入順子、
平野富希、山本知恵、中村美智子、
吉村富式、浅野久代、半田淳子、
中村和雄、兼松豊、
日本キリスト教団洛南教会

*親・子育て支援活動委員会

室紀子、伊藤千佳子

*多文化共生委員会

一色光世、富田京子、大窪誠司、
日本キリスト教団室町教会

* APT

田中順子、円城順子、神門佐千子、
同志社女子大学、
日本キリスト教団室町教会、
日本キリスト教団洛陽教会

*平和・環境活動委員会

日本キリスト教団室町教会

*あじさい保育園

神門佐千子、赤尾陽子

*自立援助ホーム「カルーナ」

野崎千代、大山悠子、一色光世、
大窪誠司、社）西陣会、
日本キリスト教団京都丸太町教会、
日本キリスト教団京都丸太町教会シオン会

*賛助費

小川久美子、半田淳子

「京都 YWCA 100 周年記念募金」 へのご協力のお願い



京都 YWCA は今年 100 周年を迎えました。現在「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業を推進しており、この歩みをさらに前進させるために、100 周年記念募金を実施いたします。ご寄付は以下の目的に充てられます。

- 担い手育成・次世代育成のために
- 保育環境の向上のために
- W・M・ヴォーリス建築「サマリア館」の補修のために
- 歴史を未来に引き継いでいくために

目 標 額：1,000 万円

(2023 年 3 月末達成額：6,081,325 円)

募集期間：2021 年 4 月～2024 年 3 月

募 金 額：個人 1 口 3,000 円

団体・企業 1 口 10,000 円

郵便振替 01080-9-1566

加入者名 公益財団法人京都 YWCA



オンラインによるご寄付は以下のサイトよりお願いします。
<https://congrant.com/project/kyotoywca/4775>

その他の京都 YWCA へのご寄付の詳細は事務所に問い合わせ
ていただくか、ホームページをご覧ください。
<http://kyoto.ywca.or.jp/support>

3・4月／理事会報告

- 京都 YWCA あじさい保育園：3/25 卒園式（育ちを祝う会）、4/1 入園式（出会いを喜ぶ会）を実施。
- あじさい寮：新規入寮者のオリエンテーションと歓迎会を実施（3/25）
- 2022 年度決算処理および 2023 年度予算を決定。
- 貸室：光熱費高騰に伴い利用料値上げ。4 月より各部屋の定員をコロナ禍以前に戻す。

- サマリア館補修について協議し、8～9 月に工事を実施する予定。
- 高齢者住宅サラーム：春の交流会として府庁の桜鑑賞会を実施（4/3）。
- 100 周年記念関係：記念誌発行（8 月）、記念式典（9/23）、記念旅行（10/6-9）、記念シンポジウム（1/27）の準備を進めている。
- 活動の担い手育成について横断的に検討するプロジェクトチームを立ち上げる。

K Y O T O Y W C A No.574 2023 年 5 月号（5月1日発行）

発行人：上村 兪巳子

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電 話：(075) 431-0351

F A X：(075) 431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：（公財）京都 YWCA

定 価：1 部 50 円

発 行：奇数月 1 日発行